

主要科目の特長(通信教育課程)

児童学科	
発達心理学1・2	受精卵として母体の中で誕生したヒトは、多種多様な環境と相互作用を行いながら、唯一無二の「その人らしさ」を持つ個人として、成長・発達していきます。授業では、そのような個性や自己意識が、生涯を通じて、どのように形成されていくかを中心に学んでいきます。子どもたちの成長・発達を促す社会的な担い手や、人格や認識の発達過程などが取り上げられます。生涯発達という観点を大切にしていきたいと考えています。
発達教育論	子どもの豊かな成長や発達のためには、保育・教育を成り立たせるための大人の働きかけが必要です。しかし近年、子どもたちを取り囲む状況は大きく変化してきています。中でもインターネットを始めとする情報技術の革新による生活環境の大きな変化は、好むと好まざるに関わらず子どもたちの日常生活に大きな影響を及ぼしています。現代社会で育つ子どもたちのより豊かな成長・発達を実現するために、保育・教育目標に合致した適切な教育の方法及び技術とはなにか。それらについて教育学、心理学などの立場から学んでいくのがこの科目です。
小児保健学1	小児保健学では、小児の心身健全な成長を図るための育児や保育の考え方、方法を習得します。また、心身の健康におよぼす環境の影響、事故防止、安全教育、感染症に対する予防などについても学びます。子どもの場合、特に心身未分化なため、心と身体の両面を、いつも留意する視点を養うことが重要となります。
児童文学	児童文学は子どものためのおとなが書く読み物です。それがいつ、どんなところから発生し、発展して今に至ったのか、児童文学が持つ二つの働き「楽しませること／教えること」はどのようにその中で絡んでいるのかを学びます。一見、単純に見える物語の中に、おとなが子どもをどう見ているか、子どもを取り巻く社会はどう変わってきているか、などの問題が浮かび上がってくるでしょう。児童文学の世界の深さに様々な角度から迫り、絵本、ファンタジー、ノンフィクションなどその諸ジャンルの多彩さを詳しく検証していきます。
社会病理	最近の家族、学校、社会で見られる様々な病理現象について、多様なトピックを拾い上げながら、受講生の社会問題に対する意識を喚起します。その上で、社会病理的な問題への今後の学習に向けての助言を行います。取り上げるテーマは、最近話題となっている「少年非行、いじめ、不登校、児童虐待、夫婦間暴力、離婚と子ども」など、問題は多岐にわたります。新聞の社会面に目を通すなどしておく、理解がもっと深まります。
食物学科	
食品・栄養学基礎実験Ⅱ	本実験は、食品に関する種々の定量分析法の理論を理解し、これを実践することを目的としています。主要な食品成分(デンプン、たんぱく質、脂質)、水分、ビタミンCについて定量分析を行います。本実験で用いている分析方法は、食品成分表に記載されている成分量の算出法にほぼ準拠しています。従って履修により、世の中で実際に行われている分析手法を理解し、身につけることができます。
食品学	食品の情報は世の中に氾濫していますが、食品について正しく理解することは栄養摂取上、調理・加工上とても重要です。食品学では、食品の成分組成、理化学的性状、栄養特性、利用法など、基礎的なことを広く学び、正確な知識を得ることを目的としています。含有成分の特徴により食品を分類し、主要な食品を中心に学習します。さらに各々の食品の類似点、相違点についても理解を深めます。
調理学実習Ⅰ・Ⅱ	調理学では理論を勉強し、それを実際に体得するための実習です。調理学実習Ⅰでは操作論の基礎を、調理学実習Ⅱでは応用として和洋中の供応食を学びます。日本女子大学では、1901年の開講当初から実習教育を重視し、調理学実習を行ってきました。その伝統・文化を引き継いだ高度な調理を、現在の科学的理論の裏づけも含めた講義を交え、実演をします。その後、各グループに分かれ、個別に実習を行うことにより調理学を完結させます。
栄養学Ⅰ	栄養の概念、食物の果たす役割を考え、食物から供給される各栄養素、すなわち炭水化物、脂質、たんぱく質、ミネラル、ビタミンおよび水について体内での機能を理解します。これらの栄養素は、生体の構成成分として代謝(利用)され異化されていきます。私たちの周囲にある食べ物を栄養学的見地からながめ、食べ物が健康維持・増進のために、いかに重要であるかを、実際の食生活に結びつけ把握し、栄養学の意義や使命を追究します。
社会・環境と健康	衛生学・公衆衛生学という社会医学の一分野を学びます。19世紀半ば、まだ細菌も発見されていない時代に、環境を改善すれば疫病は防げるといふ疾病予防のための疫学を主とした方法論として始められた学問領域です。現在でも疾病予防を主要な目標としています。集団、コミュニティを基本的な研究対象とし、保健統計、人口問題、環境問題、保健・医療・栄養・衛生行政、社会保障などについて広く学びます。本来は「健康科学と予防医学」とワンセットで学んでいただきたい科目です。
生活芸術学科	
衣材料学	衣服を構成する材料の最小単位は「繊維」であり、この繊維は天然繊維、化学繊維を問わず「鎖状高分子」から構成されています。このような繊維の成り立ちや性質を、まず理解します。さらに、繊維を集合した構造体である「糸」や糸を集合して構成される「布」の種類や構造、性質などについて学び、衣材料としての理解を深めます。「衣材料学」は、「衣造形学」、「衣環境学」、「衣整理学」などの各専門分野を学ぶ際に、その基盤となる大切な科目です。
衣造形学	衣服の人間因子である人体構造や衣服サイズ、運動機能を理解します。その上で、審美的にも、機能的にも、快適な衣服設計のための体型のとらえ方や、パターンメイキングの基礎理論について学習します。また、衣服の生産、消費流通の立場から、アパレルCADの実際、素材の造形性、縫製上の問題、服装心理などについても学びます。さらに、これに対応する衣造形実習では、衣服の生産に関連する幅広い要素技術を習得できます。
服飾文化史Ⅰ・Ⅱ	「衣」は、人間の生活文化の担い手として、長い歴史を共に歩んできました。「服装文化史Ⅰ」では、日本の「衣」に焦点をあてて歴史的な変遷を学習します。「服装文化史Ⅱ」では、西洋の服飾の変遷を民族や文化との関わりにおいて学びます。いずれの科目でも、染織遺品、物語や日記、年代記などの文献資料や絵巻、肖像画、彫像などの美術資料によって、各時代の服飾や染織品を明らかにします。
福祉環境論	「福祉環境論」では、近年頻りに聞かれるようになった「ユニバーサルデザイン」の概念を基に、高齢社会における生活環境がどうあるべきかを、考えることを目的とします。具体的には、「バリアフリーデザインとユニバーサルデザインの概念」「高齢者・障害者の心身特性や介護と住環境の関係」「高齢社会に対応した住宅の計画手法」についての理解を深めます。
住居設計学	文字通り「人が主(あるじ)の居場所」である住居については、誰もがそれぞれの経験の上に立ち、評価する力を持っています。しかし、住居のあり方は、住む人のライフスタイルや生活の質に影響を与え、とりわけ家族や地域、社会のあり方と深く関わっています。「住居設計学」では、住宅の機能的・物理的側面のみでなく、都市化、少子高齢化、ライフスタイルの多様化、環境問題、高度情報化など、現代社会の流れに対応した住居のあり方と設計要件について学習します。